

## ◇「教育振興運動」(略して『教振』)とは◇

- ◇ 教育振興運動は、学校、家庭、住民等が総ぐるみで、地域の教育課題の解決に自主的に取り組む岩手県独自の教育運動です。
- ◇ 昭和40年に、県内各地で地域をあげて学力向上のための取り組み(読書運動など)を行ったのが始まりで、以来、本県の教育水準の向上、子どもの健全育成、家庭や地域の教育力向上など、岩手県の教育環境の整備充実に大きな役割を果たしています。

## ◇運動の特徴◇

- ◇ 子ども、親、教師(学校)、地域、行政の5者が、それぞれの役割を果たしながら、相互に連携して進める運動です。



5者の  
目標・責任

子ども	…	学習意欲を高める
親(家庭)	…	家庭教育を充実させる
教師(学校)	…	学校教育を充実させる
地域	…	地域社会の教育環境を整える
行政	…	さまざまな教育条件を整備充実させる

- ◇ 地域が抱える子どもたちの教育課題を地域単位で人々が話し合い、運動の計画を立て、地域の特色を生かして自主的に解決しようとする実践的運動です。
- ◇ 子どもや親の自発的な取り組みに加え、多くの大人が子どもたちにかかわり、地域全体で子どもたちをはぐくもうとするところに特色があります。

## ◇時代の教育課題に取り組んできた運動◇

運動が始まった昭和40年代と現在とでは、社会経済や家庭生活の状況が大きく変化しています。運動内容は、その時々の子どもたちの置かれている状況や社会状況を反映して、工夫されてきました。

- ◇運動開始当時 … 主に、「学力向上」をめざし、家庭で勉強机や勉強部屋の確保や、読書の推進運動などに取り組みました。
- ◇昭和50~60年代 … 青少年の非行や校内暴力が多く起こったこともあり、あいさつ運動や美化運動、体力づくり運動なども取り入れ、「健全育成」や「健康安全」の分野にも広く取り組むようになりました。
- ◇現在 … 子どもたちに生涯学習の基礎を身につけさせるとともに、いわゆる「生きる力」をバランスよくはぐくむため、地域の特色を生かしたさまざまな体験活動などが取り入れられるなど、幅広い運動が行われています。  
近年、岩手県の子どもたちは、テレビの視聴が多く、家庭学習や家庭における読書時間が短かったことから「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」を全県共通課題として提唱し、その成果をあげています。  
また、平成23年の東日本大震災津波により新たに生じた教育課題の解決のために平成24年度より「復興教育」の観点を追加しました。

## ◇ 市町村の実践区で進められている運動 ◇

- ◇ 多くの市町村に運動推進のための協議会が設置され、さらに実践を進める地区（以後「実践区」）ごとに目標を立て運動を進めています。実践区は、小中学校や公民館、自治会など、各市町村の進めやすい単位で作られており、27年度現在、県全体で505地区あります。
- ◇ 各実践区では、学校、家庭、地域を活動場所として、読書運動やあいさつ運動、花いっぱい運動、クリーン作戦のほか、自然体験活動、ボランティア活動、郷土芸能の伝承活動、世代間交流、スポーツ・文化活動、中高生の社会参加活動など、地域の特色を生かしたさまざまな活動に取り組んでいます。
- ◇ 運動の成果を年度ごとに各実践区でまとめるほか、市町村単位で運動の集約大会や実践区リーダーの研修会などを開催し、次年度以降の活動につなげる工夫をしています。

## ◇ 「みんなで教振！10か年プロジェクト」 ◇



- ◇ 平成17年度から26年度までの10年間、「みんなで教振！10か年プロジェクト」に取り組みました。これは、それまでの運動や活動、組織についての再点検を行うことを通して、「子どもは地域全体ではぐくむ」という気運を高め、知・徳・体のバランスのとれた子どもたちの育成を目指すものでした。
- ◇ 県全体で課題を共有し、実践の成果を実感できる運動の推進を目指して、全県共通課題「家庭学習の充実」「読書活動の推進」が初めて設定され、取組がスタートしました。
- ◇ 10か年プロジェクトは次の4つのステージで進められました。  
「再構築の3年」 (H17～19)・・・モデルプログラムの開発・活用、19年集約大会  
「実践の3年」 (H20～22)・・・全県共通課題の設定・取組、22年集約大会  
「定着と検証の2年」 (H23～24)・・・震災津波からの復興、24年集約大会  
「飛躍の2年」 (H25～26)・・・10年間の成果と課題のまとめ→50周年記念大会

## ◇ 50周年記念大会の開催～これまでの成果と今後の課題～ ◇

- ◇ 平成26年1月16日、市町村や教育現場の運動関係者約1,150人が盛岡市民文化ホールに参集し、『教育振興運動50周年記念大会』が開催されました。
- ◇ これまで先人が築き上げてきた半世紀に亘る運動の歴史を振り返るとともに、10か年プロジェクトの成果として、学校・家庭・地域の連携や相互理解が促進され、8割の実践区で組織の見直しが行われたこと、99%の実践区が全県共通課題への取組を行っており、平均読書冊数の増加やテレビ視聴時間が減少したことなどの確かな成果も確認されました。
- ◇ 成果の一方で、「取組のマンネリ化」や「活動者の限定」は依然として課題に挙げられており、問題意識を共有するための学びや5者が参画する場づくりなど、**教育振興運動の原点に立ち返った自主的・自立的取組の更なる推進が課題として挙げられました。**

### 10か年プロジェクト

- 学校・家庭・地域の連携促進
- 全県共通課題の取組率向上、課題・成果の共有

- マンネリ化、活動者の限定



### これからの方向性

→プロジェクトの成果を生かした取組

→地域ぐるみで、地域の教育課題を掘り起こし解決する自主的・自立的な取組

## ◇ 平成27年度からの教育振興運動の方向性 ◇

### ◆その1：10か年プロジェクトの成果を生かした取組に

「みんなで教振！10か年プロジェクト」では、市町村や実践区の組織を見直したり、役割を明確したりするとともに、全県共通課題の解決に取り組む経験を通して、5者が連携して自主的に取り組む仕組づくりや進め方を学ぶことができました。これらの仕組づくりや「PDCAサイクル」などの運動の進め方を、市町村や実践区において継続・強化していくことが必要です。

### ◆その2：「情報メディア」が緊急性の高い教育課題に

「みんなで教振！10か年プロジェクト」では、全県共通課題「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」への取組を通じて、テレビ視聴時間やゲーム時間は減少傾向になってきました。その一方で、スマートフォンやタブレットパソコンなどの新たな情報メディアが急速に普及し、児童生徒の学力や体力の向上、基本的な生活習慣や人間関係等に与える様々な影響が懸念されるようになってきました。これらの情報メディアは便利な情報ツールである反面、人の心を傷つけたり、犯罪や事件に巻き込まれたりする危険性もあり、緊急性の高い教育課題となってきました。

### ◆その3：教育振興運動の原点を意識した取組に

教育振興運動の目指す姿（原点）は、「地域ぐるみで、地域の教育課題を掘り起こし解決する自主的・自立的な姿」です。

この姿を目指すためには、各市町村や実践区が「地域の教育課題」をきちんと位置づけ具体的に取り組むことが必要です。むしろ、「地域の教育課題」を解決するために、多様な体験・交流活動に取り組み、情報モラルのもとになる豊かな心を育むことにより、「情報メディア」の使い方にもプラスの効果を波及させることができると考えられます。

将来、全県共通課題が無くなっても、地域の教育課題の掘り起こしや解決の取組が県内各地で一層活発になり、地域の教育力がさらに高まっていくことを目指しています。

## ◇ みんなで教振！5か年プラン ◇

### ◇「みんなで教振！5か年プラン」とは ◇

平成27年度から31年度までの5年間、新たな全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」と地域の教育課題の解決に向けて、両者の取り組みを有機的に連動させながら推進することを通して、教育振興運動の基本理念に基づいた運動の一層の活性化を図ろうとするものです。

急速に普及しつつあるスマートフォン等の情報メディアは、情報の入手やコミュニケーションツールとして非常に便利ですが、一方で、個人情報の流出等により事件や犯罪に巻き込まれる危険性も高まっており、子どもの学力や体力の向上、基本的な生活習慣の確立等にも様々な影響を与えることが懸念されています。

これまでもテレビやゲーム等の情報メディアの使い方については、問題点が指摘され様々な取組を行ってきていますが、改めて子どもや大人の情報メディアの使用実態をきちんと把握し、これまで以上に身近な教育課題となっていることを共有するとともに、地域ぐるみで自主的・自立的な取組を進めることが必要です。

また、問題があるからと言って大人側が一方向的に規制するのではなく、学びを通じて児童生徒の意識が変わり、自らより良い使い方を考え「情報メディア」と上手に付き合い合える力を育てていくことが重要です。

同時に、多様な体験・交流活動の機会の創出による地域課題の解決に取り組み、身の回りには情報メディアとは違う楽しく有意義なものがたくさんあることに気づかせるとともに、直接的な体験・交流によって情報モラルのもとになる豊かな心を育むことで、情報メディアの上手な使い方にもプラスの効果を波及させることを目指しています。